

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092000037		
法人名	医療法人裕紫会		
事業所名	グループホームあがら花まる 【ユニット名:あがらユニット】		
所在地	和歌山県御坊市藤田町藤井2118番地6		
自己評価作成日	平成31年2月3日	評価結果市町村受理日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3092000037-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成31年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様のその時々のお考えを大切に、尊重しながら寄り添う事で、本人様の思うような生活が送れるよう職員間で話し合いながら個別の支援に取り組んでいる。 利用者様の食べたいものや行きたい所を聞き取りながら外出や外食に出かけられるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街に建てられた地域密着型複合施設の中のグループホームである。隣接する幼稚園の餅つき大会、しめ縄作り、どんど焼きなど、地域との協力関係の中で行われている。地域の避難訓練に参加したり、ホームの避難訓練に参加してもらい、連絡網を作成して協力体制を築いている。ソーメン流しや夏祭りには地域住民の参加があり、月1回開催の「ふじたカフェ」と共に地域交流の場として定着している。いちご狩りや季節の花見に家族も同伴できるように支援している。日常の買物や外食も楽しみとなっている。利用者が地域住民の一員として、家のようにくつろげて、楽しく笑いのある生活を送れるようにと、管理者と職員は一人ひとりの支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に管理者・職員で施設理念、行動指針を共有し、利用者様のケアに入るようにしている。ケアに入る中での気づき等、理念を下にケア内容の見直しに努めている。	理念に基づき、地域住民の一員として相互の交流のなかで、日常的にみんなで気軽に楽しく笑い合い、くつろげる生活を送れるように常に意識をもって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の文化祭に作品を出品し、当日に見学に行く・月一回ふじたカフェに参加し地域住民と交流を図っている。利用者全員が地域行事に参加できていないが出来る限り交流が図れるよう努めている。	地域住民の集まる「ふじたカフェ」の運営に協力している。地域の文化祭、近隣の幼稚園の餅つき大会など、地域との協力関係が築かれており、事業所の夏祭りにも多くの人を訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は地域に出向き、あがら花まるの事や、認知症の理解を深めてもらえるよう努めている。また、若い世代への理解も深めるため、毎年近隣の小学校へ出向きサポーター養成講座や車椅子体験を開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に現場職員、利用者様も参加し、日常生活の様子や暮らしぶりを報告している。また、運営推進委員や地域住民の方々にお願ひし、施設の夏祭りが地域の夏祭りになれるよう協力して頂いている。	民生委員・区長・行政・地域住民・家族・利用者・新しく幼稚園園長が加わり、大勢の参加で開催している。報告や、議題をきめてグループワークも行い、地域との協力体制を作り上げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市役所に出向き、担当職員との連絡及び相談を行っている。また、後見制度活用に向けて市担当職員と連携を図っている。	市町村の担当職員とは日頃から連絡を取り合い行き来している。協力関係が築かれていて、事業所の地域貢献につながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で、現場で身体拘束にあたるような状況がないかグループワークで話し合い、互いに意識を高め合っている。また3か月に一回身体拘束廃止委員会を開催し、課題について検討、結果を現場におろし全職員が身体拘束をしないケアを目指している。	言葉や薬による拘束にも注意を払い、身体拘束しないケアに取り組んでおり、日中は出入り口の鍵もかけていない。転倒の恐れのある利用者の場合は家族に説明して安全確保のためにコールマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で、虐待についての知識を深め、普段のケアの中に虐待にあたるような事がないか話し合っている。またグループワークを通じて、お互いの意識も深め合っている。		

【事業所名】グループホームあがら花まる【ユニット名：あがら】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通じ権利擁護の重要性を理解し成年後見制度の必要性も学び、必要であれば制度が活用できるよう家族様に案内したり成年後見制度について市の担当職員と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前には、ご家族に契約書及び重要事項説明書を用い、ゆっくり時間をとり説明と同意を得ている。その際不明な点や疑問点等あれば丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、利用者、家族との関係性を築き、気兼ねなく意見や要望を言って頂けるように努めている。	運営推進会議の中で家族が意見や要望を出せる場を設けている。利用者や家族が意見を言いやすいように日頃からコミュニケーションを大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に意見や提案を上げやすい関係作りに努めている。また、ミーティングには施設長も参加し普段言えない事や個別相談を通じて管理者に意見を言える機会を作っている。	職員が管理者に意見や要望など、何でも話しやすい関係にある。個別相談の機会も常時設け、職員の声を利用者のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や勤務状況に応じ、賞与、昇給に反映させている。また、資格取得に向けサポートも行い、向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた外部研修に参加できるようにしている。また、実際の現場において個別に指導教育をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員との相互訪問はしていないが、外部研修を通じ、他事業所の職員との交流を図る中で、お互いの悩み等を意見交換し、自施設におけるサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活状況を本人様、家族様から聴き取りし、入居後も安心した生活が送れるよう本人様との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、ご家族から今までの不安事や心配事、それらの軽減を図りつつ、今後の要望について伺い、本人が入居してからも安心した生活が送れるよう支援していく事を伝え、家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時には、今まで利用していたサービスや自宅での様子、活用していた社会資源などの聞き取りを行い、入居してからも今までと同じような生活が送れるよう可能な限り努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、お話を聞かせて頂きながら、利用者の立場に立ち、物事を考えながら共に暮らす者同士として関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時には本人様と家族様が気楽に過ごして頂ける時間を築き、家族様に日々の状況や様子を記録を確認して頂きながら報告し、家族様の意向等も伺いながら本人様を支えていく関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人、市職員の協力も得て、馴染みの人や場所、自宅に行き来出来るようにしている。また、今までの趣味活動を継続する上で、友人の方が毎月面会に訪れて下さっている方もいる。	家族関係を把握して関係継続に努めている。利用者の自宅に同行することもあり、台風の被害を受けた家屋への対処も行なえるよう支援した。日常習慣を継続して、新聞を購読している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味や話題を通じて自然と交流が持てるように座る席や空間作りを行っており、入居者様同士で声をかけ合いながら洗濯干しやたたみ、時にはパズルゲーム等されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今後について気軽に相談できるよう関係性を築いている。また、契約が終了しても、次の受け入れ先の相談について、適宜相談援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時をはじめ、意向も変化する中で、日頃からコミュニケーションを密に取り、本人の思いを聞いたり、くみ取り、その人らしい暮らしが継続できるような情報を職員間で共有している。	普段からコミュニケーションを密にとり、昼食後・おやつ時・夜間帯などにも話を聞き、その時の思いや意向を把握して、その人らしい暮らしが継続できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人とご家族より今までの生活歴や馴染みのある物、生活環境等伺い、センター方式等を活用し職員間で情報の共有が図れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を過ごしている中で、本人様の言動や思い、状態や状況等を記録に残し職員間で共有し、現状必要な支援が行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の出来事や状況等を記録し、カンファレンスで話し合い、それぞれの意見やアイデアを実践に反映し、現状に合った介護計画を作成している。	日常の様子や、家族の聞き取りなどを記録して、一人ひとりの状況に合わせて作成している。3ヶ月に1回見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様のケアを行う中で、実践して気づいた事を記録に残しカンファレンス等で情報共有し、検討しながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて支援は行えているが、全てにおいては柔軟な対応は行えていない。ただ、あがら花まるには4事業所で成り立っているため施設全体で利用者様を支えられるように努めている。		

【事業所名】グループホームあがら花まる【ユニット名：あがら】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からの地域資源が、継続して活かせるように努めている。また入居後新たに必要となった支援について、新しい資源を発掘し、利用者が安心して暮らせる場であるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に診て頂けるよう家族様にも説明している。また、本人様の状態や状況に合わせて往診して頂ける様にかかりつけ医に依頼している。	入居前からのかかりつけ医への受診が家族との関係維持にもなっている。定期受診の際には普段の状態をあらかじめ医師に伝え、症状によっては職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署の看護師や訪問看護師に状態の変化等を報告、相談し適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至った際は施設での様子や状態等を報告している。また、地域連携室や医師と連携を図り出来るだけ早期退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様が元気な時から家族様と終末期、看取りについて話し合いを行っている。本人様、家族様の意向を尊重し、希望に添えるように専門職と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化が進んだ際には家族とよく話し合っ本人、家族の意向に沿うよう支援している。医師・看護師の訪問、家族の協力などの体制を整えば事業所での看取りを行う方針で、マニュアルを整備して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、内部研修を行い職員は実践力の向上に努めている。経験の浅い職員は不安を抱えている事もあり、その際はベテランの職員が指示を出したり補助に入っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回行い、津波を想定した避難訓練も行っている。非常時に備え、近隣住民の方々の協力も得られるよう、地域住民の連絡網も作成している。	地域の避難訓練にも参加し、近隣住民の連絡網を作成して、地域との協力体制を築いている。近隣住民から、自宅の庭を通り抜けて避難できるよう庭を整備するとの申し出を頂いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修内でグループワークを行い、実際の現場に立ち回り、プライバシーの侵害を冒していないかを話し合い、改善に努めている。	内部研修内でグループワークを行い、日頃の言葉使いなど具体的な内容を確認し合い、理解を深めてケアにつなげている。数名の利用者の名前を表示したパッドをトイレ内に準備している。	トイレ内のパッドに表示された名前を目隠しするなどの配慮が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送る中で、本人の希望を伺いながら、自己決定できる場面作りをしている。意思表示が難しい方でも笑顔になれるような支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴を踏まえ、その人のペースに合った支援が出来るよう努めているが、現状利用者の重度化に伴い、希望通りの支援が出来ない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの色や服装、身だしなみについて本人、家族に伺い、本人らしい姿で居られるよう、ご家族様にも協力を得ながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は出来る限り利用者の希望を聞きながら季節の物を取り入れるようにしているが現状お弁当を提供する機会が増えている。配膳は一緒にしているが食事介助を要する方も多く一緒に食べれない事がある。	調理の体制が整わず、外部業者からの弁当を温めて食器に移し替えて提供することが多くなっている。弁当の日も、ご飯と味噌汁は、ユニット内で作るようにして、できる時はおやつ作りも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際には一人一人の状態に合わせた量や形態を提供している。また食事の時間に限らず、食事摂取量が少なければ、1日を通して必要な栄養や水分量が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや付き添い、自己にて歯磨きをして頂いたり、全介助のケアに入ったりと一人一人に合った口腔ケアの支援を行っている。		

【事業所名】グループホームあがら花まる【ユニット名：あがら】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の状態に合わせて適宜声掛けを行ったりトイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	一人ひとりの状態に合わせて、声かけやトイレ誘導を行い、夜間もトイレ誘導を行って、失敗を減らすことができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出るよう乳製品や食物繊維の物を摂って頂いたりしているが必要な際には緩下剤の服用をする事がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望やタイミングに合わせて入浴できるようにし、一人でゆっくり入浴される方もいれば職員と会話しながら入浴を楽しめる方も居り、一人一人に合わせた入浴の支援を行っている。	希望の時間に入浴できるように配慮し入浴後の保湿にも気を配っている。入浴を拒否する利用者にも職員を交代したりタイミングをみて声掛けをするなどして、入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類は自宅で使い慣れた物を揃えて頂けるよう家族様や本人様をお願いしたり、また、快適な環境で眠れるよう、温度や光等も調整し、寝つけない時には、話を聞き温かい飲み物でリラックスできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用中の薬を一人一人、一覧表にまとめ職員がいつでも確認できるようにしている。また薬の変更や追加があった際には状態の変化について観察しその都度かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の得意な事や生活歴の中から個々に合わせた役割を作り助け合いながら生活を送って頂いている。また、季節に応じた行事や外出支援を計画し、楽しみや気分転換を図っていただけるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	意向を聞きながら外食に出掛けたりしている。また、日常的には、買い物に出掛けたり、自宅に外出、近隣の散歩に出掛けたり気分転換にドライブに出掛けるなどの支援をしている。	職員体制が整わず、外出の機会は少なくなってきたが、いちご狩りや藤の花を見に行くなど企画をしている。利用者から要望があれば買物、一時帰宅などの支援も行い、家族の協力も得て外出できるよう取り組んでいる。	

【事業所名】グループホームあがら花まる【ユニット名：あがら】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者の中で、日用品や往診代、薬代、散髪代等自己にて支払いができるよう見守りしている。身内の居ない利用者は市の担当職員と連携し、銀行員からお金の出金ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの希望があれば家族様と連絡を取って頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを感じられる共用空間となっている。居間は広くはないが、利用者同士や職員とも距離は近く話はし易い。傍にキッチンがあり料理の匂いも感じられ良い刺激を受けやすくなっている。玄関には、地域の方が定期的に花を活けに来て下さっている。	壁には手芸作品や外出時の写真が飾られている。居間に2台のテレビがおかれ、日常的に、違う番組の音声が混じって絶えず聞こえている中で、利用者が食事したり、気の合う人と話をしたり、新聞を読んで過ごしたりしている。	絶えずテレビ番組の音声が混じって耳から入ってくる状況を見直し、音楽、静寂など、その時々合わせた音環境への一考が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で気の合う利用者様同士で集まり思い思いに過ごされたり、他部署の知人の所に行き過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様や本人様に自宅で使い慣れた馴染みの物等を聞き取り、居室に持って来て頂き自宅の様に居心地よく過ごしていただけた様に工夫している。	タンスの引き出しに使いやすく目印をつけたり、窓に細工して気になる廊下の明かりを遮断したり、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫している、位牌を置いてお供えし手を合わせる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには皆が見える位置に時計を掛け、日や曜日もいつでも確認出来るようカレンダーを掛けている。安全への配慮として適所に手すりを設置し、居室内もその人にあった安全な環境作りを工夫している。		